事例No.	2788
公表年度	R5
団体の属性	町村
団体名	北海道下川町

事例区分	行政改革

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・少子化・人口減少 ・組織改革

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

「経済・社会・環境の調和による持続可能な地域社会づくり」プロジェクトへの取組

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



「経済・社会・環境の調和による持続可能な地域社会づくり」プロジェクトへの取組

北海道下川町（しもかわちょう）

DATA

事　例　名：下川町
所　在　地：北海道上川郡下川町幸町63番地
連　絡　先：TEL 01655-4-2511
　　FAX 01655-4-2517
ホームページ：https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/

取組の概要

1970年代頃からの基幹産業の衰退や産業構造の変化などにより、急激な人口減少が続き、過疎化が急速に進行していった。この危機を乗り越えるべく、下川町は地域活性化活動に積極的に取り組むとともに、地域資源である森林を最大限に活用し、持続可能な森林経営システムである「循環型森林経営」を基軸に、森林バイオマスの再生可能エネルギーを活用。地域エネルギーの自給や低炭素社会の構築などの新たな社会システムを構築し、持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを進めている。

評価された点

- 地域のエネルギー自給と循環型森林経営の構築に向けて、長期にわたり取り組みを進めており、成果をあげてきている点を評価。
- 森林という足下の地域資源に目を向け、バイオマスといった現代的手法も活用しながら、今後求められる循環型、そして持続可能な地域社会を構想している点を評価。
- 環境を大切にする経済の事業は、子育て支援とつながり、まちづくりのさまざまな面に貢献している点を評価。間伐材の活かし方に悩んでいる市町村の参考となる成功事例である。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2001年

森林共生ビジョン策定
地域資源である森林を核とした「経済・社会・環境」の調和による持続可能な地域づくりを目指す。

・1970年代頃から国の産業構造の変化等により基幹産業が衰退し、地域活力が低下。
・地域資源を活かした地域づくりを検討。

2004年

北海道初となる木質バイオマスボイラー導入
・植栽と伐採を繰り返す循環型森林経営に取り組む。
・林地残材等を燃料としたボイラーを町内の温泉施設である「五味温泉」へ導入。



・化石燃料の一部を再生可能エネルギーとし、CO_2排出量を248t-CO_2削減。

2008年

環境モデル都市認定
・地球温暖化防止のため、CO_2などの温室効果ガスの大幅な削減を目指す独自的な取り組みとして、国から認定。



認定証

・再生可能エネルギー導入促進ロードマップの策定・公表。
・環境負荷軽減のためのリフォーム住宅制度導入。

2011年

環境未来都市認定
・豊富な森林資源を最大限かつ最大効率で活用する自立型の森林総合産業（林業・林産業・森林バイオマス産業）を構築し、持続可能な地域づくりを掲げ、環境未来都市として、国から認定。

・吉本興業などの多様な企業との連携。
・「経済・社会・環境」の3側面の価値創造、統合的解決による「持続可能な地域社会の実現」に向け、さらに取り組みを推進。

2018年

SDGs未来都市認定
・「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向け、林業のシームレス産業化、中心市街地最適居住空間計画、脱炭素社会の構築などを事業化し国から認定。



認定証授与式

今後の展望

2023年度　ゼロカーボン推進に向けた実行計画の策定。
2030年度　2030年における下川町のありたい姿（下川版SDGs）目標。

受賞者のコメント

本町では、今から約20年前から森林資源を最大限活用して、経済・社会・環境の調和による持続可能な地域づくりを目指しています。SDGsは世界共通の17の目標ですが、下川町では町独自に「2030年における下川町のありたい姿」を策定、7つのゴールを掲げ、まちづくりを進めています。今回の受賞をきっかけに、さらに基幹産業の振興と町民の安心・安全な暮らしをテーマに取り組んでまいります。